

パネルディスカッション 第2部

テーマ 相双地域から考える新しい地域の創造

地域住民、U ターン、域外からの進出と、お互い異なる立場ながらも、相双地域で魅力ある取組みを展開しているパネリスト3人それぞれの思いを熱く語って頂くとともに、石川県羽咋市での先駆的な取組みの紹介も交えながら、これからの地域づくりのあり方を探っていきます。

モデレーター 一般社団法人 RCF 代表理事 藤沢 烈 氏

京都府生まれ。一橋大学卒業後マッキンゼー・アンド・カンパニーを経て独立し、NPO・社会事業等に特化したコンサルティング会社を経営。東日本大震災後、内閣官房震災ボランティア連携室勤務を経て RCF 復興支援チーム（現・一般社団法人 RCF）を設立。企業や省庁・地方自治体のディスカッションパートナーとしてひと・まち・産業の復興事業創造や事業推進に伴走してきた知見を活かし、近年は東北以外の地方創生や多様な社会課題にも取り組みを広げている。

ゲスト 高野 誠鮮 氏

石川県出身。羽咋市の公務員時代に奇抜なアイデアと行動力で地元の米である神子原米（みこはらまい）をローマ法王に食べてもらい、見事に米のブランド化に成功させた立役者。限界集落を蘇らせ、伝説のスーパー公務員として TV ドラマの主人公モデルにもなった。現在は妙法寺住職、総務省アドバイザー、立正大学の教授なども務めている他、「奇跡のリンゴ」青森県木村秋則氏と共に自然栽培の普及に向け全国を駆け回る日々を過ごす。

パネリスト 特定非営利活動法人 Jin 理事 川村 博 氏

浪江町生まれ。2005年、NPO 法人 Jin を立ち上げ、浪江町で高齢者・障がい児者のデイサービス等を開設。震災後は避難した方々の生活支援のためにサポートセンターを運営。また、ふるさとは美しくなければならないと、2013年から同町で農業を開始。翌年から、トルコギキョウを中心とした切り花の営農に取り組み、そのクオリティは、東京などで高い評価を受けている。

パネリスト コドモエナジー株式会社 代表取締役 岩本 泰典 氏

大阪府生まれ。2004年省エネルギー製品の製造販売会社「コドモエナジー」を設立。有田焼の伝統技術を活かした蓄光・螢光建材「ルナウェア」を開発。震災後、川内村に設立した工場で生産を開始、2017年4月には東京メトロ、2017年10月に営業再開した JR 富岡駅舎への納入を手始めに「ルナウェアを通じて被災地を照らしていきたい」と語る。※経済産業省主催「第4回ものづくり日本大賞」を受賞。

パネリスト 株式会社小高ワーカーズベース 代表取締役 和田 智行 氏

小高町（現・南相馬市小高区）出身。大学入学を機に上京。2005年7月、東京のITベンチャー企業の取締役に就任後、U ターン。東日本大震災に伴う原発事故では自宅が警戒区域に指定され、避難先を転々とした後、いち早く小高区に戻る。2014年5月に小高で避難区域初となるコワーキングスペース「小高ワーカーズベース」を皮切りに、「地域の100の課題から100のビジネスを創出する」という思いを持って、事業を続々と立ち上げている。

後援

内閣府、経済産業省、復興庁、独立行政法人中小企業基盤整備機構、一般社団法人日本経済団体連合会、公益社団法人経済同友会、日本商工会議所、全国商工会連合会、全国中小企業団体中央会、（一社）東北経済連合会、一般社団法人全国信用金庫協会、一般社団法人全国信用組合中央協会、一般社団法人全国銀行協会、福島県商工会連合会、福島県中小企業団体中央会、福島県商工会議所連合会、南相馬市、浪江町、川俣町、飯舘村、田村市、葛尾村、川内村、双葉町、大熊町、富岡町、楢葉町、広野町、原町商工会議所、小高商工会、鹿島商工会、浪江町商工会、川俣町商工会、飯舘村商工会、都路町商工会、葛尾村商工会、川内村商工会、双葉町商工会、大熊町商工会、富岡町商工会、楢葉町商工会、広野町商工会、浜通り広域指導センター、一般社団法人福島県銀行協会、福島県信用組合協会、福島県信用金庫協会、中小企業診断士協会、福島民報社、福島民友新聞社、朝日新聞福島総局、毎日新聞福島支局、読売新聞東京本社福島支局、産経新聞福島支局、河北新報社、日本経済新聞社福島支局、時事通信社福島支局、共同通信社福島支局、NHK福島放送局、ラジオ福島、福島テレビ、福島中央テレビ、福島放送、テレビユー福島、一般財団法人福島イノベーション・コスト構想推進機構

福島相双復興シンポジウム

～相双地域の事業・なりわい再生から福島の未来を創造する～

平成 30 年 3 月 3 日 土 13:30 ~ 17:00 (12:30 会場)

会場：ビッグパレットふくしま（郡山市）

プログラム



公益社団法人
福島相双復興推進機構（福島相双復興官民合同チーム）



